

- 開催日時 平成29年6月30日(金)13:00～15:00
- 開催場所 大阪府西大阪治水事務所 1階会議室
- 出席委員 梶原委員、蔵治委員、武田委員、藤田委員、増田委員 以上5名(五十音順)

## ■議事要旨

### 平成28年度の森林環境整備事業実績にかかる評価および平成29年度事業計画について

#### 共通

- 施行前と施行後の写真のアングルをできるだけ統一したほうがわかりやすいのでは。  
⇒再度、写真の選定をし、修正する。
- 28年度で遅れた分というのは、どう取り戻して行くのか。  
⇒30年度以降取り戻して行く。
- 来年度以降、写真を撮る際には黒板に日付を入れたほうがよい。  
⇒黒板に日付を入れて撮影する。
- 口頭で説明した内容を写真に反映すること。  
⇒写真に反映する。

#### 危険溪流の流木対策事業

- P12の自己評価の表の書き方について違和感がある。P13の中央の表と同様のカテゴリーに合わせたほうが理解しやすい。特に流木対策では指標が流木対策の延長となっているが溪流長に合わせたほうがいいのでは。  
⇒わかりやすく修正する。
- H28年度の事業実績の第三者評価については基本的には妥当。「事業効果」の検証方法のひとつである「土壌の浸透能調査」については溪流沿いの立木伐採の箇所において調査することを確認した。

#### 主要道路沿いにおける倒木対策事業

- 竹林に広葉樹の苗木の植栽をすることとなっているが、順調に生育しているかどうかチェックはするのか。  
⇒施工実施主体であるので経過確認する。
- P26では竹林を伐採した補植前の写真となっており、補植した状態が確認できない。どのくらいの密度で補植するのか確認できるように。また、活着率、生育状況等の追跡調査が必要では。  
⇒写真については補植後のものに修正する。また、補植した箇所の現場で活着度合い、生育状況を確認した上でさらに補植等も検討していく。
- 公表の資料とするのなら、説明した内容を写真にも注釈を入れるほうがよい。例えばP19の白くぼつぼつ見えるものは「ナラ枯れ薫蒸跡である」等。同じP19で今年度実施箇所と29年度に先送りした部分がどこなのか、先送りした理由も合わせて注釈をつけるほうがよい。  
⇒具体的な理由等がわかるように表記手法の工夫をする。
- 公表の資料とするのなら、車両番号がわからないように処理すること。  
⇒写真処理修正する。
- H28年度の事業実績の第三者評価については基本的には妥当。植栽工を実施した箇所については生育状況のモニタリングを要望する。

## 持続的な森づくり推進事業（基盤づくり）

- 基盤づくりで整備したものがどれだけ使われたかという評価になるが、木材がどれだけ輸送されたかどのように把握するのか。  
⇒毎年、木材利用量、府内生産量を実施しており、地区ごとに出てくる材の量を把握している。
- H28年度の事業実績の第三者評価については、積雪の影響で事業実績が計画量を下回ったが、それに伴い、予算の執行額も減少しており、事業の執行としては適切で評価は妥当である。

## 持続的な森づくり推進事業（人材育成）

- P50の評価シートの事業効果の指標の「34箇所4800haの森林の健全化」は人材育成にそぐわないのでは。  
⇒人材育成の事業効果については、28年度の実績も踏まえながら、次回の審議会で議論していただく。
- 研修で実施した意見交換をさらに木材の流通につなぐことが課題である。参加した川下の受講者がその後具体的に何をしたのか、フォローアップしていかないと評価のしようがないのではないか。  
⇒受講者の今後の活動状況を追跡把握するとともにH29年度の川上の受講者との意見交換会等のマッチングを検討する。
- H28年度の事業実績の第三者評価については、追跡調査として受講後のアンケート調査も実施し、事業は適切で評価は妥当である。
- 基盤づくり事業を実施した結果、1人で複数箇所の地区を担当するほうが効果的・効率的であることが判明し、これを踏まえて現場の実態に合わせて事業実績の指標である育成人数を34人から12人に変更することで了承した。

## 持続的な森づくり推進事業（未利用木質資源(林地残材等)活用)

- H28年度の事業実績の第三者評価については、P55の評価シートの理由欄が説明不足である。4ヵ年計画の事業を1ヵ年に変更した理由や事業の周知活動について府が直営で実施した理由等、理由が明確であれば妥当と言えるが、現状では妥当といえない。  
⇒理由を明確に記載する。
- 追加資料に記載している中核団体というのがP52の図では何に該当するのか、位置づけの説明を入れていただきたい。  
⇒位置づけがわかる説明を記載する。
- P52の仕組みの図が良くない。山の所有者が何らかの意識転換が必要であるという意見があったように、この図には活動を受け入れる森林所有者の存在も記載し、その間を取り持つ中間団体（事務局）の意義をもっと明確に書いたほうがいいのでは。  
事務局の数を増やすのと併せてボランティアになる森林所有者も増やしていくほうがいいのでは。  
H29年度の指標の見直しについては、以上のスキームを検討して持ち回り審議としてはどうか。  
⇒ご意見いただいた内容を事務局で検討し、持ち回り審議させていただく。
- 他府県で実施事例はないのか。  
⇒（森づくり課）他府県の事例も調べた上で提案する。

## 子育て施設木のぬくもり推進事業

- H28年度の事業実績の第三者評価については、1園当たりの補助金が上限額に満たない施設が多かったため、実績数が当初の設定よりも増加したことを確認し、事業は適切で評価は妥当である。